

メディアネットワーク業務における国際化の取り組みについて

木村 浩章 小林 直人

早稲田大学 メディアネットワークセンター

{hiroaki, naoto}@aoni.waseda.jp

概要： 今日、大学をはじめ高等教育機関に在籍する学生の国籍は日本だけに限らない。そのため、多くの業務分野での国際化対応は欠かせない。本論文では、早稲田大学においてこれまで行ってきたメディアネットワーク業務における国際化の取り組みを紹介する。

1 はじめに

昨今、高等教育機関におけるコンピュータおよびネットワークの必要性はますます増大している。早稲田大学（以下、本学）においては、学生個人へのメールアドレスの付与だけでなく、講義履修登録から成績照会、奨学金等の振り込み口座に至る様々な情報が一つのシステム上で電子化されており、業務の効率化が図られている。また、一部講義では動画ストーリーミング配信を利用したオンデマンド授業なども取り入れられており、教職員・学生問わずこれらシステムの利用は必要不可欠なものとなっている。

これらシステムの円滑な利用には全利用者、とりわけ新入学生に対しての教育および啓蒙が欠かせない。本学では、1) 新入学生のための「新入生フォローアップセミナー」の実施、2) 新入学生へ「PC・ネットワーク利用ガイド」の配布、3) 新入生への「情報倫理テスト」の実施、4) 「情報関連システム利用内規」の制定及び周知などを行い、様々な面からサポートを行っている。

一方、本学に限らず多くの高等教育機関では、日本人のみならず多数の国からの学生を受け入れている。このため、上記のシステム及びサポート体制の国際化が欠かせない。本論文では、以降の章において本学でこれまで行ってきた主な国際化の取り組みを紹介する。

2 国際化対応の取り組み

2.1 Waseda-net ポータル

Waseda-net ポータルは、本学において電子メールの利用やオンデマンド授業を受けるといった、学生・教職員の目的に応じて適切なサービスを提供するシステムである。とくに学生にとっては講義履修登録や成績照会などの作業も本ポータルを経由し

て行うため、入学後からすぐに必要となるものである。

本システムは学生に必要なサービスが日本語と英語の両言語で提供されており、留学生でも利用可能となっている。また、英語以外を母国語とする学生に対しては、とくに母国語を使う機会が多いと思われるウェブメール環境において、日本語と英語の他に、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の計8言語にてサービスが提供されている。

2.2 新入生フォローアップセミナー

本学における新入生フォローアップセミナーでは、入学時まであまりコンピュータに触れてこなかったコンピュータ初学者に対し、1) 上記 Waseda-net ポータルの利用法、2) メールアドレスの取得、3) 情報セキュリティについて、等のレクチャを行っている。新入生には2.4節で述べる情報倫理テストの受験や「新入生セキュリティセミナー」を受講する義務があり、コンピュータ初学者にはその理解を深めるためにもこのフォローアップセミナーは有効である。

このフォローアップセミナーは年度初めに数回行われる（学生のスケジュールを考慮するため）が、そのうちの一部は英語で行われ、留学生にもセミナー参加の機会が与えられている。

また、本学の国際教養学部では特に留学生が多いため、国際教養学部の留学生向けに英語でのセミナーを実施している。これは全て英語で行われ、内容はフォローアップセミナーと比較的類似したものとなっている。

2.3 PC・ネットワーク利用ガイド

PC・ネットワーク利用ガイドは、本学におけるコンピュータの模範的利用を記述した冊子である

[3]。内容はコンピュータの一般的な利用法から上述の Waseda-net ポータルの利用法、電子メール、情報倫理に至るまできめ細やかに記述されており、ページ数は百数十ページとなっている。この冊子はセキュリティ情報や学内コンピュータ環境の改変、メディアネットワーク業務の組織変更等に合わせて毎年改訂され、例年 4 月に発行されている。

英語版 PC・ネットワーク利用ガイドは、例年 9 月に発行している [1]。4 月に発行された日本語版の内容に加え、日本語版発行後に変更となったシステムやサービス、日本語版のフィードバックから改善した方が良いと判断したものなどをピックアップし、英語版利用ガイドの内容に反映させている。また、学内で標準的に使われているオペレーティングシステムが日本語版 Windows であることもあり、各国語インプットメソッドへの切り替え方や、日本語版ソフトウェアのスクリーンキャプチャに対して英語で詳しく注釈を載せるといった日本語版ガイドにはない工夫も施されている。

2.4 情報倫理テスト

本学では学生に対して情報リテラシの徹底をはかるため、上記 Waseda-net ポータルだけではなく電子メールシステム等全てのコンピュータシステムは「情報倫理テスト」に合格しなければ利用することが出来ない（情報倫理テスト自体も Waseda-net ポータル上で行われるため、実際には時限アカウントが付与され、その間にテストを受験することになる）。情報倫理テストは択一式テストの形式をとっており、問題データベースの中からランダムに問題が選ばれ、一定数出題される [2]。

全ての学生に情報倫理テストを受験させるため、問題データベースには日本語版と英語版の二種類用意されている。学生は受験時に日本語版と英語版のどちらで受験するかを選ぶことが出来る。これらデータベースは毎年改訂され、充実さを増している。

2.5 情報関連システム利用内規

本学では、本学が管轄するネットワークや提供しているシステム等の利用について必要な事項を定めた情報関連システム利用内規を規定している。システム利用の際の禁止事項等も規定されており、全てのシステム利用者はこの内規を理解し遵守する必要がある。

しかし、内規の英語版を提供することは容易ではない。あいまいさを排除し、厳格な運用が求められる内規に対する英文化は慎重を期すべきであるし、正規文書が日本語版と英語版の二版あることに疑問を呈する向きもある。

本学では現在、内規の正規文書はあくまで日本語版とし、内規の中でもとくに重要な部分（禁止事項やセキュリティに関する事項）などを参考訳として提供している。

3 さらなる国際化対応に向けて

前章で述べたように、本学では恒常的に利用されるシステム等は多くの場面で日本語以外に少なくとも英語版を提供し、留学生に不便を強いないよう配慮されている。しかし、一時的な障害・メンテナンス情報や一部補足マニュアル等は日本語版しか用意されていないこともあり、サービスの質に幾ばくかの差があることも事実である。

また、これまで日本語版文書完成後に英語版文書に翻訳する作業を行ってきたため、文書リリース時のタイムラグの発生は不可避であった。しかし、今後より一層コンピュータ・ネットワークが学内で活用されるようになるにつれて、即時的に全学生にうまく確実に情報を伝える必要に迫られることも考えられる。その際には両文書の同時リリースが必要であろう。

学生サービスの質の向上、全学的な情報伝達手段としての利用の両面から、今後さらに体制を整えていく必要があるだろう。

4 まとめ

本論文では、早稲田大学におけるメディアネットワーク業務の国際化の取り組みについて述べた。また、今後の課題として、より多くのコンテンツの国際化と翻訳時のタイムラグを短くする必要性を挙げ、学生サービスの質の向上とシステムの情報伝達手段としてのさらなる活用をはかるべきとした。

参考文献

- [1] 金光 永煥, 近藤 悠介, 見崎 研志, 松山 響子, 「早稲田大学における英語版『PC・ネットワーク利用ガイド』の効果的な改訂」、平成 18 年度 情報教育研究集会、pp. 868 – 871、2006
- [2] 小林 直人, 齋藤 朗宏, 古川 勉, 「WBT による情報倫理教育」、平成 18 年度 情報教育研究集会、pp. 882 – 884、2006
- [3] 齋藤 朗宏, 見崎 研志, 「早稲田大学における 2006 年度版『PC・ネットワーク利用ガイド』」、平成 18 年度 情報教育研究集会、pp. 217 – 218、2006